

住所 士幌町字上音更 21-15  
TEL 01564-5-3121  
URL <https://shihoro-highschool.com/>



### 士幌町から有機農業を普及していきたい

「有機JAS認証」作物は、生産工程の記帳や資材証明書の保管などの管理が必要。そのノウハウを活かそうと2017年には「グローバルGAP認証（食品安全、労働環境、環境保全に配慮した「持続的な生産活動」を実践する生産者や優良企業に与えられる世界共通ブランド）」も取得した。安全・安心な農作物の証を持つことから、「東京2020大会」の選手村に食材を提供したというから驚きだ。

「食材提供をメインで担ったのは先輩ですが、イベントのPRなどで有機農業や士幌町のことを知ってもらえる機会が増えたのはうれしいです」と岡本さん。以来、「有機JAS認証」に興味を湧いた地元農家も増え、中には同様に認証取得の方法を相談する人もいるそうだ。

「食の根幹をなす安全・安心でおいしいものを育てた経験は今後の礎になるはず。生産工程や書類の管理を学んだ経験も、社会に出てから活かされるだろう。生徒たちの表情がまぶしくも大人びていたのは、将来を見据えた「実学」に取り組んでいるからなのかもしれない。

## 有機農業を広める 高校生コンサルタントに！

活動を通じ、有機農業の可能性を広げたい

「農」を科学するアグリビジネス科と、「食」を科学するフードシステム科からなる北海道士幌高等学校。生徒たちは、最先端機器を活用した実践的な農業生産や安全・安心な食品開発などを学び、2年次からは10の専攻班に分かれて専門分野を深掘りする。

今回、スポットライトを当てたのが「有機農業専攻班」。同校は2014年に、道内の高校ではいち早く「有機JAS認証」を取得した。士幌町内の農業は慣行栽培が主流だからこそ、高校の授業を通して有機農業の可能性を広げていきたいという願いが発端だ。

「両親が牛舎管理に携わっている影響から、士幌高校に進みました。当初は農協職員を目指して先生に相談したところ有機栽培の管理を学ぶのもプラスに働くと、有機農業専攻班をオススメしてもらったんです」

こう話すのは3年生で班長を務める岡本侑己さん。有機農業は化学肥料や農薬を使わないため、堆肥を混ぜたり、すぐに生い茂る雑草を抜いたり、大変な部分のほうが大きいと率直に語る。

「だけど、手間ひまかけた分、おいしいものが育った時の達成感は半端じゃありません」と満面の笑みを見せた。



校内の発表会に向けて各種農作物の記録を作成中



写真部の腕前を活かして工程管理用の記録写真を撮影！



※1 P15「confa農業教室」参照。

※2 農薬や化学肥料を使う従来の栽培。